

第 40 号
行 責 任 者 局
平 成 8 年 3 月 20 日
鈴 木 武 一
兩 根 出 張 所
TEL 3766-3157

あのなつかしい多摩川を取りもとすために、二子玉川郷土史会の有為で、三月二十三日、兵衛島に草花の漣を蒔くことになりました。今年の夏は、司馬君がいっぱい。夕すすみには、ぜひ多摩川へいらっしやい。みなさん、草花は、大切にしましょう。



私にとって葡萄は子供の
ようなもの、毎日、やさし
く話しかけていると、素直
でおいしい葡萄になってく
れます。

区民農園を利用して

キウリなどが、日一日と大きくなり、トマトは真赤に色づき、小松菜は青々と育って行く様子を見ておりますと、嬉しく楽しいです。

また皆様とお話して、お互いに作物の大きさを競い合ったり、私の所に無い物は頂き、相手に無い物は差し上げたりして、人と人との和が出来て参ります。

おいしい野菜を作るには、
良く土をたがやし、自分の
子供の様に可愛がることで
すね、私も八十才を過ぎま
した。何のとりえもありま
せんが、畑で野菜を作って
衆しくのんびりと過して行
きたいと思っております。

花づくり教室第六期生として当選、入学。週一回一年通ったフラワーランドは懐かしい花の公園です。授業

は前半講義、後半実習でした。講義より実習が熱しかった。園庭でテーブルの上にポットを並べ、用土を入れ、小さな苗を植付ける。ビニールハウスで保管。成長を待つ。既に成長した苗を露地に植え、それが育って開花する。その様子を返してしたが、その花には買ったものよりはおかに愛着を感じます。

地域の農業

五十丁 高橋 弘幸
 ただ今農業後継者として
 野菜作りに励んでいます。

この地域に限らず都市農業は、情報や流行を早く敏感にキャッチ出来る反面、住宅密集、人通りの多い場所での視線や肥料散布等に気を配ることもあり得ます。野菜は必畝以上に使用せず、作物によっては無農薬に近く、馬糞などを使った有機栽培により、新鮮で安全な味のある野菜作りを心掛けています。

いまどきかっつてのうた

「花は桜木……人は武士」

謳歌われ忘れて半世紀
哀歌いろ色あつたけど
春はヤツパリ機です
花の王者は 吉野山

梁井よしのと名付けられ
サクラ吹雪は世界一ツ！
アメリカ迄も贈られて
お札に貰ったハナミズ木
玉川あたりで咲いてます
彼岸さくらや島さくら大島
石割さくらは岩手県
神代さくらが山梨県

長野はコヒカン様です
五色桜が荒川で
淡墨うすすみぐくらは岐阜の根室ねむろ
八重咲き黄色もあるような
花にまつわる物語おはなしも
限りない程あるそう

花の曆をあとにして
 聖身赴任も　せにやならぬ
 卒業　入学　就職と
 アレコレ春は忙しい
 朝ね坊など出来ません
 隣の健坊に負けないで
 風邪をひいても直ぐ治し
 一番で吹き飛ばせー

弱いからだは好き嫌い
何であもかんでも克く啗んで
喰べりや健康ついで来る
快食 快眠 快便は
百舌翁の 特訓です
チョイト真似してみようかナ
どうせ此の世は苦と楽と
百々どる二重奏

思案なげ首 おぼろ月
男氣リンリン立ち上り
行こう元氣で



郷土紹介

用賀村の大火

世田谷区近代火災史年表の中に、今から百有余年前明治十四年(一八八一)四月四日、午後十一時頃、用賀村に大火があつたとの記録がある。

出火場所が村の西方、瀬田との村境に辺り(今の首都高速三号線用賀下り口近く)で、葺葺の平家一棟と物置四棟が全焼し、その火は、またたく間に近隣の民家十五棟、土蔵二棟、物置九棟に燃え移り、焼失家数は全部で三十一棟、延三六一坪余りであつたと言ふ。

不思議な事に、この大火についての言い伝えは、今全く残っていない。

当時、用賀村の戸数は百六十戸位、その一割の家が罹災したのであるから、大事件であつたに違いない。

明治十四年と言へば、新政府による改革も西南の役を経て一段落、東京の中心部には十五の区、周辺部に六つの郡が出来、この辺りは荏原郡に属していた。

瀬田、用賀の両村は連合村を形成し、京西小学校的の隣に村役場を置き、村長は長谷長十郎氏が務めていた。然し、村の経済力では大火からの復興も出来ぬまま家族で村を離れて行つた難民者が多くいたと想像出来る。そして、この大火自体も人々の記憶から遠のいてい、たのだろうか?...

瀬田に温泉湧く!

一月中旬、瀬田四丁目、ザ・スポーツコネクションで温泉が湧いたと聞き、さっそく取材に。場所は噴水のある中庭、工事用の排水管から少し茶色を帯びた湯がじゃんじゃん出ている。マネジの永島氏は掘り始めて約一ヶ月、千

七百個掘ってわすかに湯分を含む毎分30リットル、43度のお湯が出ました。皆さんが気軽に利用できるようにしたい。

今回は10月毎に土壌サンプリングも採った。今後貴重な資料となるだろう。様々な手続きの後、夏頃には方接露目となる予定。(取材 小山田)

用賀出張所管内から大島さんへ

瀬田五丁目が受賞した、五年間ほとんど毎日自宅から馬場公園に歩いて行く、新開紙などを回収。その積

み重ねがデパートへの多岐の車椅子寄贈へと実を結び、今回の受賞となった。心から感謝するとともに、お祝いを申し上げます。



公園のつくりかた

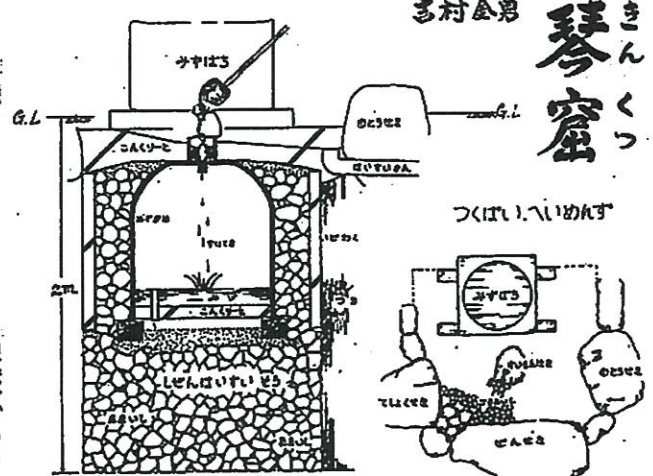
用賀出張所管内から大島さんへ、瀬田五丁目が受賞した、五年間ほとんど毎日自宅から馬場公園に歩いて行く、新開紙などを回収。その積

園に入れようになり、線に囲まれた世田谷美術館では四月五日から「ムンク展」も開かれます。

ご家族連れで、どうぞ。東京都南部公園緑地事務所世田谷区玉川総合支所土木課

趣味の広場

水琴窟構造図



この施設は 瀬田5丁の古村造園にあります

水琴窟の名は大正或は昭和の世に成ったからの名称である。考察された江戸時代には洞水門、掘鉢水門、伏鉢水門、伏瓶水門等の名で呼ばれた。

そもその発案者は遠州流の茶道創始者小堀遠江守と云われる。

江戸後期、松平不味公、遠州流の茶道を学ぶと同時に洞水門の作製法を修得されたものと思える。不味公の藩地出雲方面には古くから洞水門があり不味公との関係が深い。

その頃(今から約二五〇年前)江戸の庭師が水鉢使用後の残水処理として、この洞水門を考案したと言う口伝が残されている。

江戸初期、この洞水門について「松山一奇事記」に「遠州十八士の洞水門深く掘り中に箕子を当て上に石を敷き、掘り水門戸を並べ、掘りも線土にて固め、松葉を敷きたり。遠州の茶の師古田絨部之を見て室州の名人に成るべき人」と感心申されたりと、この様な意味の記録が残されている。

戦後、私は大井廣島町吉田邸に庭師として出入し、水琴窟を発見。忍師平山勝義氏と共に調査した後、平山氏がその妙音なる音色を世に発表して以後、水琴窟は静かなブームとなった。



フラワールランド、ブドウ園、そして、農家の方の畑、近辺所にも「土」が沢山ありました。

用賀出張所管内から大島さんへ、瀬田五丁目が受賞した、五年間ほとんど毎日自宅から馬場公園に歩いて行く、新開紙などを回収。その積

ご家族で、お友達と、土と親しむ春を、大いにお楽しみ下さい。(飯田)